

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193800034		
法人名	株式会社 パシフィックケアサービス		
事業所名	グループホームゆとりの里三石(ユニット1)		
所在地	北海道日高郡新ひだか町三石鳧舞344番地の6		
自己評価作成日	令和 元 年 10 月 21 日	評価結果市町村受理日	令和 2 年 2 月 17 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2016\\_022&kani=true&JigyosyoCd=0193800034-00&PrefCd=01&VersionCd=022](http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022&kani=true&JigyosyoCd=0193800034-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号		
訪問調査日	令和 元 年 11 月 21 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆとりの里三石は自然に恵まれた広い敷地に平屋造りで建っています。窓からは目の前に広がる太平洋や町内の山並みが見え夕暮れ時には水平線に沈む夕陽や美しい夕焼けが見られます。建物の周りには畑や花壇があり春の種まきから秋の収穫まで、利用者様と職員が協力し合って管理を行っています。近隣住民やご家族を招いての夏まつりやクリスマス会を初め、月に一回程度企画行事を行っています。建物内部は共用部分(玄関、廊下、脱衣所、トイレなど)のほとんどの場所に手すりを設置、居間や居室は大きい窓で太陽の光を存分に取り入れることができる造りになっています。災害時には迅速に消防署へ通報できるよう自動通報装置、スプリンクラーを設置しています。非常口も玄関2ヶ所を含め全5カ所あり災害時の避難経路は十分確保されており、年2回以上の避難訓練を消防や地元消防団の方たちとも合同で行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は平屋建ての2棟があり、中央の連絡通路を挟んで各ユニットに別れており、建物内も広く清潔で開放感がある。居室の窓からは慣れ親しんだ海の夕焼けや、潮風を感じながら暮らしている。保育園児が来訪したり中学校の職業体験など、利用者との交流の場を広げている。事業所行事の夏祭りやクリスマス会には利用者、家族、地域住民などが参加して交流し、町内会行事(敬老会、清掃など)には、利用者も参加して地域住民と交流している。利用者は職員と一緒に会報誌を銀行や郵便局、保育所に届けながら地域と交流している。又、新ひだか町民芸術祭に利用者の作品を出展し、地域の人たちと利用者との楽しみの場となっている。介護度の高い利用者が居室より居間に居たほうが安心と云う利用者の声は、「ゆっくり、一緒に、楽しく」の理念が職員を通し利用者と共に共有している。運営推進会議では外出傾向の利用者の対応や利用者の言葉を、身体拘束適正化委員会で報告書として職員や運営推進会議の参加者に周知し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。看護師や協力医療機関とは24時間連携できる体制が整っており、終末支援時に揺れ動く家族の気持ちに寄り添いながら看取りに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を見える所に掲示し	基本理念「ゆっくり、一緒に、楽しく」と運営理念「相手の気持ちに立って、期待された以上の介護を目指します」を掲げ、職員会議などで共有を図り、新人研修はケアの根幹となるその理念を共有し、実践につなげている。	地域密着型サービスとは、利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスです。地域密着型サービスの意義や役割を考えながら、地域や利用者などのニーズの変化に合わせ、現状にあった理念に作り変えていく事を期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の参加や美容院、歯科などなじみの所を利用している	町内会に加入し、敬老会や清掃活動に参加している。会報誌を銀行、郵便局、保育所に利用者と職員と一緒に届けるなど、顔の見える付き合いをしている。中学校の職業体験や、保育所園児が来訪するなど地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月お便りを発行し、地域各所へ利用者さんと配り情報を発信している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で日々の取り組みや問題点の改善策など報告している	年6回、地域包括支援センター職員、自治会会員、家族などが参加して開催している。入居状況、行事予定、研修報告など事業所の取り組みについて話し合い、身体的拘束等の適正化委員会での事例、問題点の改善対応を報告し、意見や助言を得て、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	研修や講習で情報の共有など積極的に行っている	町担当者とは、事業所の実情やケアサービスの取り組みを、電話でやり取りしながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。また、介護職員や介護人材育成確保の情報交換の働きかけをするなど、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会や情報共有をしている夜間は防犯のため玄関を施錠している	管理者、職員は内部研修、外部研修から拘束の弊害・拘束自体が異常だという認識を正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。外出傾向の利用者の対応や利用者の言葉を身体拘束適正化委員会で報告書として運営推進会議の参加者に周知し、地域との協力関係につながる取り組みをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等参加し情報共有して防止に努めている		

グループホームゆとりの里三石(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族や関係施設からの情報を参考にして安心して暮らせるよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明し理解してもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話などで密に近況報告している。	利用者との日々の会話から意見や意向を把握し、家族から利用者の得意な事、「文字を書く、絵が好き」などの情報を得て、利用者の「私の作品集」を作成する等、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議を一か月に一回開き、意見を出来る場作りをして出来る限り反映できるようにしている	ケアの方法に関しては都度意見を出し話し合い、より良いケア方法を取り入れ支援している。ヒヤリハットに記録されている情報についても会議で職員意見や提案を出し合い記録し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	あまり感じられない、現在改善中である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修はいける範囲で交代で行くように、知識を高めて来ている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の研修や地域ケア会議に参加している		

グループホームゆとりの里三石(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	些細なことでも耳を傾け、事前情報も活用し本人が安心して暮らせるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談、見学し不安な事などあれば説明し要望にこたえ、関係性を築ける様になっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族の希望に沿うようサービス支援を検討し、その人に合った支援を行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族同様の関係性を築ける様努力し、自ら参加したいと思える雰囲気作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話、面会時に近況報告し、相談がしやすい環境作りをしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの場所や人物の話題を共有し、いつでも利用できる環境作りをしている。	馴染みの洋品店が来所し洋服を選んだり、2カ月に1度理容院が来所したり、行きつけの店に食事に行ったり、友人の訪問など、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の位置など工夫し話をしやすいようにしたり、レクリエーションで交流を図れるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次の利用する施設の情報の共有や家族に会ったら近況を聞いたりしている			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりの意見、生活習慣を反映して本人本位になるよう努めている	日々の関わりの中で意向や思いを把握し、得た情報を職員全員で共有している。困難な場合は家族から情報を得ながら、ケアに向けた対応に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を使用して情報収集を行い、ケア向上に努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録に記載し引き継ぎ職員同士で変化などないか把握している			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月初めにカンファレンスを行い1人1人の心身状態を考慮して現状に即したケアプランを作成している	利用者、家族の要望や医療関係者の意見を聞き、短期3ヵ月、長期6ヵ月毎に介護計画を作成し、利用者・家族に説明して確認印を得ている。また、特段の体調変化が見られるときには随時対応して、常に現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録を確認し、今後のケアプランへ反映している			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族と本人の希望に応じ、意見を取り入れ良いケアを出来るよう努めている			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の店に買い物に行ったり温泉を利用し楽しんで頂けるよう支援している			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診、訪問看護を行ってもらっている	利用者と家族の希望に添ってかかりつけ医に継続して受診できるように支援している。協力医の往診は月に2回、看護師による日々適切な健康管理が行われ、24時間医療連携体制も整っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	夜勤や緊急時に現場内の看護職や訪問看護師らと連携を取り24時間いつでも連絡できるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	スタッフが交代で面会に行き体調状況など詳しく情報をやり取りしている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、主治医、スタッフと話し合い十分に説明をし、方針を決めチーム支援に組み込んでいる	「終末期医療と介護」と「看取りケア」に基づき、利用者、家族に、事業所でできる事を説明し、同意書を得ている。家族や親族、医療関係者、職員とチームで看取り支援をしている。又、現在入居の利用者も事業所での看取りを希望している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習や緊急時の処置の勉強会など開き知識を深めている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い避難経路の確認や災害対策を行っている	4月の煙幕訓練、10月の避難訓練の他、自主訓練等年2回以上の避難訓練を実施している。消防署が立ち合い、訓練終了後講評を受け、会議で課題を話し合い、自主訓練に活かしている。水や食料品、自家発電機等を備蓄している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護に努めている	日々のケアの中や会議で接遇について話し合っている。新人研修、内部研修では誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしないことの徹底や、個人情報の取り扱いも責任ある管理をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り本人に自己決定してもらえるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のニーズに合わせて過ごしやすい生活ができるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に必要な物を一緒に買い物したり、本人の希望に応じ支援している		

グループホームゆとりの里三石(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を一緒に作ったり、準備や片づけ、盛り付けなどもなるべくしてもらっている	献立は利用者の要望や好みを聞いて作成し、食材は地域の商店から配達で購入し、利用者、職員と一緒に調理をしている。職員の家族が作る惣菜も度々食卓を飾り、食事を楽しんでいる。誕生日ではおやつを作り、その後抹茶と羊羹でおしゃべりしながら笑顔の時間を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分がうまくとれない方にはゼリーを提供など工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人に合ったトイレ使用を行い失敗を減らせるように支援している	排泄チェック表から一人ひとりの排泄パターンを把握し、表情やタイミングで声をかけ、トイレでの自立排泄を支援している。日中は布パンツを使用、夜間は数名がパットを使用している。介護度が高くオムツ使用の利用者はポータブルトイレで支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分、運動で調整し自力排泄をして頂く様支援している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来るだけ本人の希望に添えるよう支援している	入浴の時間は決めてはいるが、曜日は決めず週2～3回の入浴をしているが、毎日入浴をする利用者もいる。拒否する利用者には入浴日を変更、希望やタイミングに合わせている。また、近くの三石温泉や町から静内温泉の無料入浴券が提供され、温泉入浴を楽しむ機会を設けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して寝られるように支援し、好きな時間に寝てもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	情報共有を行い症状の観察を行い関係機関に連絡を取っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション、家事、地域施設の利用を行い気分転換をしている		

グループホームゆとりの里三石(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る範囲で支援しているが職員人数の関係で思うように行えていない	地域の芸術祭に利用者の作品を出展し、芸術祭へ出かけている。会報を職員と一緒に地域の銀行、郵便局、保育所に手配りするなど、外出のきっかけを作りながら、車いす利用者も職員の工夫の支援で毎月外出をしている。また、近隣の温泉施設での外食等の外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金より随時必要なだけ出している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	字が書ける人にはやってもらっているが出来ない事が多い		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によって飾りを変えたり工夫している	共用空間はソファを数カ所に配置し、窓も大きく明るく広い空間である。両棟をつなぐ連絡通路もゆとりがあり、左右の出入り口は花壇への出入りや、災害時は避難通路となっている。介護度が高い利用者のベッドを居間に置き、他の利用者と一緒に一日を過ごし、「一緒に居たほうが安心」という雰囲気を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席は決まっているが気の合った利用者さん同士でも過ごせるよう支援している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていた物を置いて居心地良く過ごしてもらっている	入居時に馴染みの家具や生活用品を持ち込み、過ごしやすい環境づくりをしている。家族の写真等を飾り、居心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の出来ることを工夫して出来るよう支援している		